

第23回
全日本身体障害者野球
選手権大会

2021.11

(NPO)日本身体障害者野球連盟



開会式

2021年11月6日

9:00~

競技開始

9:50~



新型コロナウイルス感染予防対策のため、チームは代表5名による行進とし、略式で式典を行いました。
地域の子どもたちも和太鼓で応援してくれました。

地区大会予選を勝ち抜いたチームが但馬の地に集まりました。
(新型コロナの影響で中止になった地区は協議によって決定)



龍野アルカディア (初出場)
仙台福祉メイツ



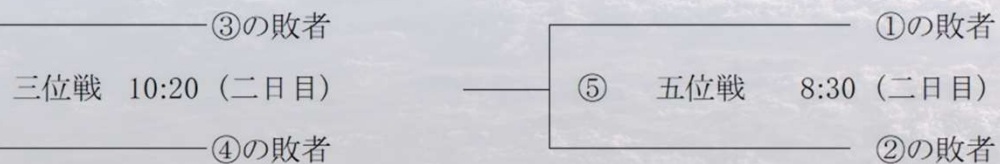
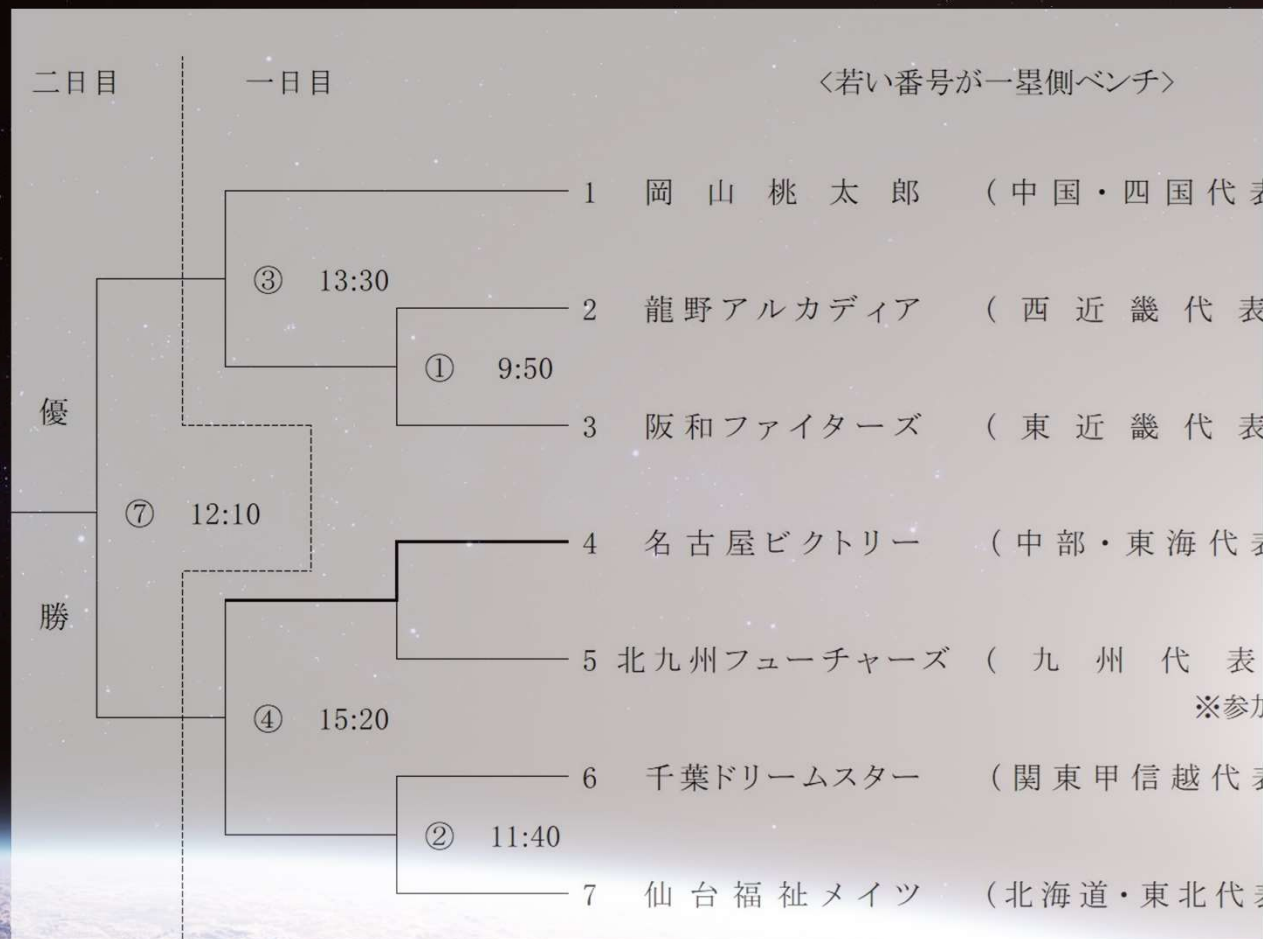
阪和ファイターズ



千葉ドリームスター (初出場)

初出場のチームもあり、初めての但馬ドームとそのグラウンドに興奮気味に第1試合がはじまりました。岡山は前回の今大会に続き連覇を狙い、名古屋は今年5月の選抜大会で初優勝し、打倒岡山に気合充分。阪和は東近畿では常勝チームだが但馬では勝てず、ここ数年『但馬1勝』を目標に掲げています。

組み合わせ表



新型コロナの影響で九州地区が出場辞退となり、試合時間を変更し上記の組み合わせで開催しました。感染予防対策のため、関係者のみの入場に制限し、受付で健康チェックシートを提出、検温、消毒を行いました。参加したいが職場で許可の出なかったチームメイト、応援に来られないご家族の要望があり、Instagramで最新試合情報を発信しました。

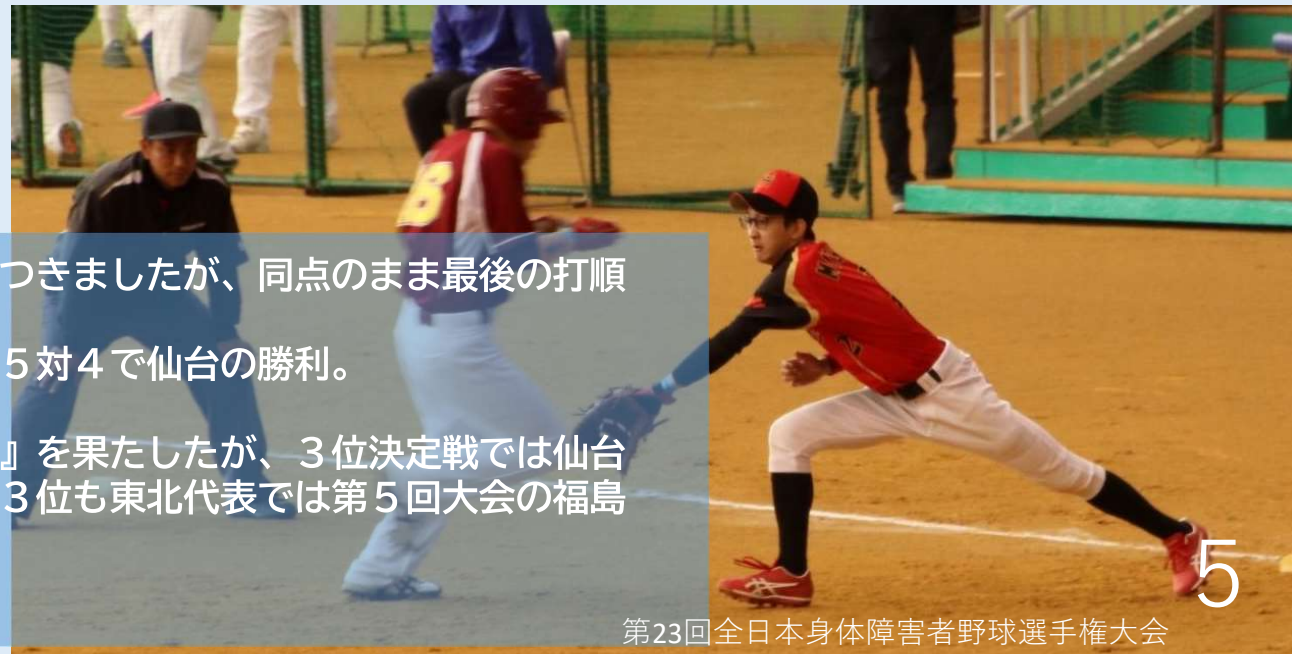
必死のスライディング。
皆で勝ちたい！一生懸命なプレーがドームに響きます

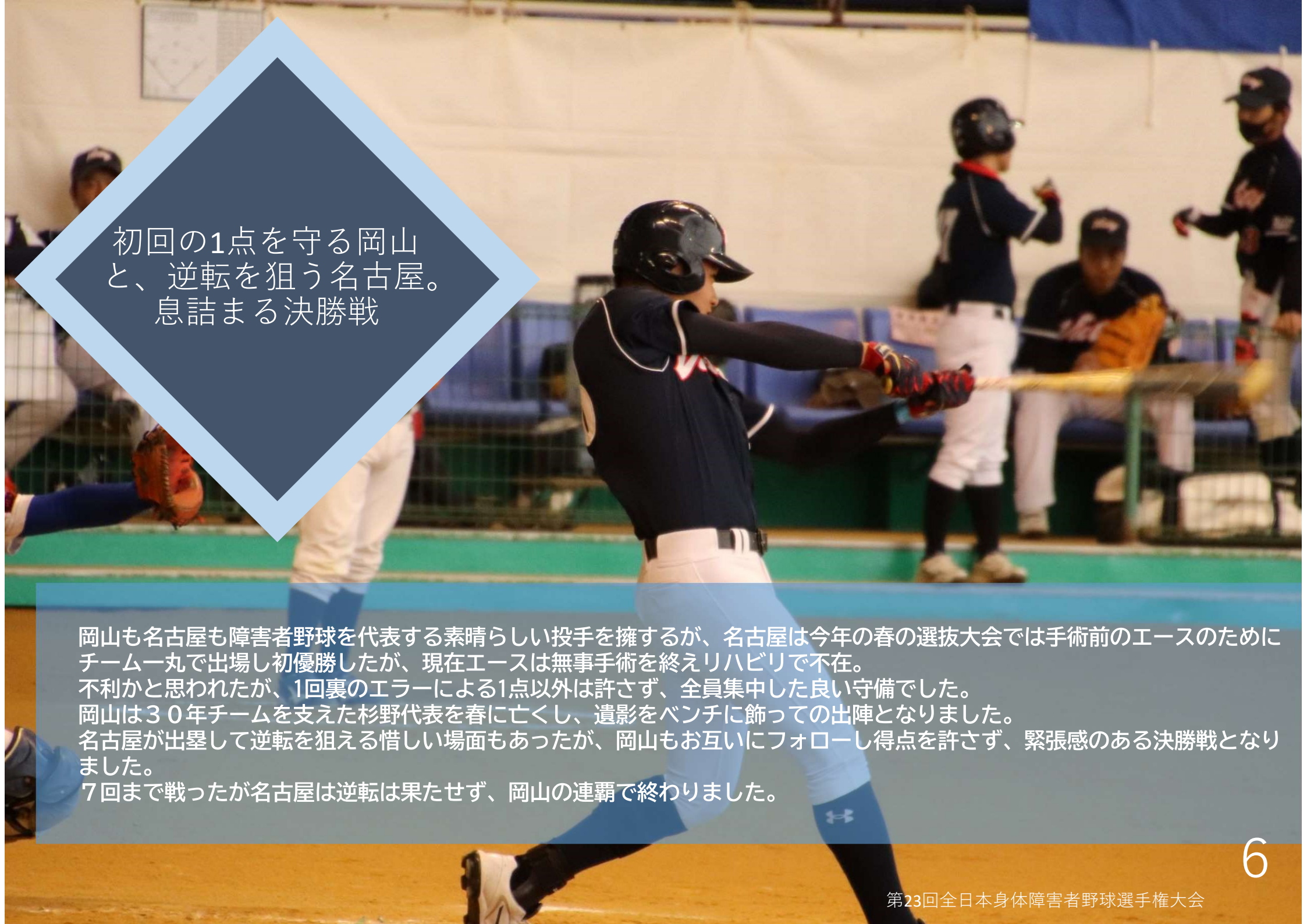


同点じゃんけん！
最後のひとりで
仙台の勝利



千葉はホーム前のきわどいクロスプレーで仙台に追いつきましたが、同点のまま最後の打順9名でのジャンケン勝負へ。全員が息を詰めて見守る中、9人目までもつれこみ、5対4で仙台の勝利。悲鳴と喜声がドームに響き渡りました。阪和は龍野アルカディアに勝ち、悲願の『但馬初勝利』を果たしたが、3位決定戦では仙台の年季の入った巧みな打線に敗れることに。仙台の3位も東北代表では第5回大会の福島以来の大健闘でした。





初回の1点を守る岡山
と、逆転を狙う名古屋。
息詰まる決勝戦

岡山も名古屋も障害者野球を代表する素晴らしい投手を擁するが、名古屋は今年の春の選抜大会では手術前のエースのためにチーム一丸で出場し初優勝したが、現在エースは無事手術を終えリハビリで不在。不利かと思われたが、1回裏のエラーによる1点以外は許さず、全員集中した良い守備でした。岡山は30年チームを支えた杉野代表を春に亡くし、遺影をベンチに飾っての出陣となりました。名古屋が出塁して逆転を狙える惜しい場面もあったが、岡山もお互いにフォローし得点を許さず、緊張感のある決勝戦となりました。7回まで戦ったが名古屋は逆転は果たせず、岡山の連覇で終わりました。



2021年11月7日
閉会式
14:00~

優勝 岡山桃太郎

第19回、第21回大会に続いて、3度目の全日本選手権制覇で全国トップの確かな実力を見せつけました。

岡山では今年30年チームに貢献してきた杉野代表を亡くし、新体制での出場となりました。ユニフォーム姿の遺影をベンチに飾り優勝を捧げる姿にくわえ、感染予防のため、チームメイト同士で互いに優勝メダルをかけあう中、78歳の副松総監督が谷藤監督の首にメダルをかける姿がとりわけ印象的でした。





準優勝 名古屋ビクトリー

3位 仙台福祉メイツ
4位 阪和ファイターズ
5位 千葉ドリームスター (初出場)
6位 龍野アルカディア (初出場)

2021年度
リーグ年間MVP

井戸 千晴 (岡山)

殊勲賞

赤岩 稔 (岡山)
松元 剛 (名古屋)

敢闘賞

萩原 龍斗 (岡山)
松田 慎平 (名古屋)

最優秀選手賞

早嶋 健太 (岡山)

優秀選手賞

藤川 泰行 (名古屋)

MLB JAPAN様寄贈で新しくなった年間MVP
トロフィーの初年度贈呈者は、26歳の笑顔が爽
やかな岡山の井戸選手に手渡されました！



応援ありがとうございました

